
[SP 改] 閲覧記録機能

FOR SHAREPOINT 2016

管理者マニュアル

1.0 版 2016 年 12 月 16 日

株式会社アンク



目次

稼働環境.....	2
インストール.....	3
アップグレード.....	5
アンインストール.....	7
ログ出力設定.....	8

稼働環境

『[SP 改] 閲覧記録機能』は、以下の環境で動作します。

- Microsoft SharePoint Server 2016

インストール

以下の手順でインストールします。

1. ソリューションの追加

PowerShell の Add-SPSolution コマンドを使ってソリューション ファイル「ASK.Footmark.wsp」をソリューション ストアに追加します。

例)

```
Add-SPSolution -LiteralPath c:\¥ ASK.Footmark.wsp
```

ソリューション ファイルの詳しいインストール方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考になさってください。

Add-SPSolution

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607552.aspx>

2. ソリューションの展開

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定] から [ファーム管理] セクションの [ファーム ソリューションの管理] ページを開き、上記で追加した「ASK.Footmark.wsp」を Web アプリケーションに展開します。

3. 「閲覧記録機能インフラストラクチャ」機能の有効化 (Web アプリケーションの機能)

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[アプリケーション構成の管理] から [Web アプリケーション] セクションの [Web アプリケーションの管理] ページを開き、機能を有効にする Web アプリケーションを選択して、リボンメニューの [機能の管理] をクリックします。表示される [Web アプリケーション機能の管理] ダイアログボックスで、『[SP 改]閲覧記録機能インフラストラクチャ』を「アクティブ」にします。

4. 「閲覧記録機能」の有効化 (サイトコレクションの機能)

本機能を利用するサイトの、トップ レベル サイトの [サイトの設定] 画面から [サイト コレクションの機能] ページを開き、『[SP 改]閲覧記録機能』を「アクティブ」にします。

※コンテンツデータベースに、「閲覧情報格納用テーブル」と関連するストアードプロシージャが登録されます。

SharePoint のサービスパック (SP)、累積更新 (CU)、Hotfix を当てた際に、本機能に利用するストアードプロシージャが削除され、本機能が利用できなくなる可能性があります。その場合は、本機能を利用するサイトコレクションが属するコンテンツデータベースに、仮のサイトコレクションを作成し、そのサイトコレクションの「サイトコレクションの機能」で本機能をアクティブ化してください。それにより、そのサイトコレクションが属するコンテンツデータベースにストアードプロシージャが登録され、同じコンテンツデータベースに属す

るすべてのサイトコレクションで本機能が再び利用できるようになります。

上記の作業完了後、仮のサイトコレクションは削除して問題ありません。

この手順は、本機能を利用するサイトコレクションが属するすべてのコンテンツデータベースで行う必要があります。

アップグレード

既に本機能の以前のバージョンがインストール済みの環境に、新しいバージョンを適用する場合には、以下の手順でアップグレードします。

1. ソリューションのアップグレード

PowerShell の Update-SPSolution コマンドを使ってソリューション「ASK.Footmark.wsp」を更新（ジョブを投入）します。

例）

```
Update-SPSolution -Identity ASK.Footmark.wsp -LiteralPath c:\ASK.Footmark.wsp -GACDeployment
```

ソリューション の詳しいアップグレード方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考になしてください。

Update-SPSolution

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607724.aspx>

2. PowerShell の Start-SPAdminJob コマンドを使って投入済みのジョブを実行します。

例）

Start-SPAdminJob

注意：ジョブが自動実行設定されている場合、このコマンドはエラーとなります。自動的にジョブが実行されるため、エラーは無視して問題ありません。

ジョブの詳しい実行方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考になしてください。

Start-SPAdminJob

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ff607833.aspx>

※アップグレード時の注意点

アップグレードの操作中に、自動的に IIS が再起動されます。自動的に再起動されない場合には、IIS マネージャや IISReset コマンド等で IIS の再起動を行ってください。

IIS 7.0: アプリケーション プールをオンデマンドでリサイクルする

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/cc770764%28WS.10%29.aspx>

[備考）多国語対応バージョンにアップグレードする際の注意点](#)

多国語対応していない、以前のバージョンをインストール済みの環境に、多国語対応したバージョンを適用する場合は、以下の点にご注意ください。

・閲覧記録列、閲覧記録追加列の列名の多国語化

本機能を有効化したリスト/ライブラリには、「閲覧記録列」が追加されています。また、「閲覧を記録するビュー」として設定されたビューには「閲覧記録追加列」が追加されます。列が既に追加された状態で多国語対応バージョンを適用した場合、これらの列名は、サイトの表示言語を切り替えても日本語のまま表示されてしまいます。

列名をサイトの表示言語によって切り替えるようにするためには、リスト/ライブラリの閲覧記録の設定画面で本機能を一旦無効化し、再度有効化する必要があります。この作業を行うことで、多国語に対応した列がリスト/ライブラリに対して追加されます。

アンインストール

以下の手順でアンインストールします。

1. 機能の無効化

本機能を利用しているすべてのサイトで、トップ レベル サイトの [サイトの設定] 画面から [サイト コレクションの機能] ページを開き、『[SP 改]閲覧記録機能』を「非アクティブ」にします。

2. 閲覧記録機能インフラストラクチャの無効化

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[アプリケーション構成の管理] から [Web アプリケーション] セクションの [Web アプリケーションの管理] ページを開き、機能を無効にする Web アプリケーションを選択して、リボンメニューの [機能の管理] をクリックします。表示される [Web アプリケーション機能の管理] ダイアログボックスで、『[SP 改]閲覧記録機能インフラストラクチャ』を「非アクティブ」にします。

※閲覧情報を記録している SQLServer 上のテーブル等は自動的に削除されません。

3. ソリューションの取り消し

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定]から [ファーム管理] セクションの [ファーム ソリューションの管理] ページを開き、「ASK.Footmark.wsp」を すべての Web アプリケーションから取り消します。

※アンインストール時の注意点

必ず『[SP 改]閲覧記録機能』・『[SP 改]閲覧記録機能インフラストラクチャ』を“非アクティブ”にしてから、展開の取り消しを行ってください。

4. ソリューションの削除

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定]から [ファーム管理] セクションの [ファーム ソリューションの管理] ページを開き、「ASK.Footmark.wsp」を削除します。

ログ出力設定

不具合調査等で、ログを出力したい場合は以下の手順でトレースログ出力の設定を行ってください。

※ログの出力は、他の SharePoint 機能やサービスと同じ様に「診断ログ」として出力されます。そのため、十分に運用計画を行ってから設定してください。

※フォーム列制御機能のトレースログは、[Process]属性 が「ASK.Footmark」で出力されます。

1. [サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの [監視] から [レポート] セクションの [診断ログの構成] を表示します。
2. [記録されるイベントの設定] の設定を行います。
 - [カテゴリの選択] に表示されているツリービューで、[SharePoint Foundation] ノードを展開します。

記録されるイベントの設定
これらの設定を使用して、Windows イベント ログおよびトレース ログに記録されるイベントの重要度を制御します。重要度を下げると、記録されるイベントの数が増加します。

1 つのカテゴリの設定を変更することも、すべてのカテゴリの設定を変更することもできます。すべてのカテゴリを更新すると、個々のカテゴリの変更内容が失われます。

カテゴリの選択

カテゴリ
☐ すべてのカテゴリ
☐ Access Services
☐ Access Services 2010
☐ Business Connectivity Services
☐ Document Conversions
☐ Document Management Server
☐ eApproval
☐ Education
☐ Excel Services Application
☐ InfoPath Forms Services
☐ Office Automation Services
☐ Office Services Infrastructure
☐ PerformancePoint Service
☐ Search
☐ Secure Store Service
☐ Services Infrastructure
☐ SharePoint Express
☒ SharePoint Foundation
☐ SharePoint Foundation Search

- 展開された子ノードから [Web Parts] のチェックボックスにチェックを入れます。

☐ SharePoint Foundation		
☐ 通知	情報	中
☐ アプリ認証	情報	中
☐ アプリの展開	情報	中
☐ アプリ ホスティングのクォータ管理	情報	中
☐ アプリ管理	情報	中
☐ アプリ Marketplace	情報	中
☐ アップグレード	情報	中
☐ 利用状況インフラストラクチャ	情報	中
☐ ユーザー設定のプロバイダー	情報	中
☐ Web コントロール	情報	中
☐ Web パーツ	情報	中
☐ WOPI	情報	中
☐ ワークフロー サービス	情報	中

- [トレースログの記録対象となる重要度の最も低いイベント] で、「高」を選択します。

イベント ログの記録対象となる重要度の最も低いイベント

トレース ログの記録対象となる重要度の最も低いイベント

3. [トレースログ] で、トレースログが保存される場所、保存するログファイル数、1 つのログファイルを使用する時間を設定することができます。

トレース ログ トレースを有効にすると、トレースログを特定の場所に保存することができます。注意：ファームのすべてのサーバー上に存在する場所を指定する必要があります。 他に、ログ ファイルの最長保存日数を設定したり、ログに使用するディスク領域の最大容量を制限することができます。トレースログの使用に関する詳細	パス %CommonProgramFiles%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\15\LOGS 例: %CommonProgramFiles%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\15\LOGS ログ ファイルの保存日数 14 トレース ログのディスク領域の使用を制限する ☐ トレース ログのディスク領域の使用を制限する トレース ログの保存容量の最大値 (GB) 1000
---	--

4. [OK] ボタンをクリックし、設定を完了します。

以上